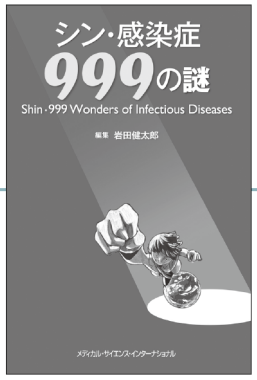
シン・感染症999の謎



MEDSi
6,380円（本体5,800円＋税10%）
A5変/784頁
ISBN978-4-8157-3068-0

編集：岩田 健太郎

前から読んでも，後ろから読んでも，誰もが多くの学びを得ることができる

『シン・感染症 999 の謎』は，初代『感染症 999 の謎』の 13 年ぶりの続編である。ちなみに「999 の謎」シリーズは，「感染症」を皮切りに「集中治療」「総合内科」が刊行されているが，続編の登場も今回の「感染症」が初めてとなる。

本書は，本気で感染症の臨床に携わるならば是非知っておきたい 60 分野，999 項目について，気鋭の感染症医や公衆衛生の専門家 35 人が，Q&A で解説する形式になっている。それぞれの著者のスタイルによる違いはあるものの，問いに対してエビデンスを提示したうえで，ではどう考えたらよいのか，著者のエキスパートオピニオンを慎重に提示する形でおおむね進んでいく。感染性心内膜炎，結核など，感染症診療やコンサルテーションで頻出の疾患についてはもちろんのこと，それぞれの病原体，抗微生物薬，微生物検査，さらには論文の書き方やコンサルテーションスキルなどまでが網羅されている。これから感染症医を目指す医学生や初期研修医，あるいは今まさにトレーニングを受けている専攻医にとっては，必要となる知識や能力を俯瞰することに加え，将来に向けて感染症医としてのキャリアをイメージしてもらうのにも役立つだろう。

それでは，すでにひととおりトレーニングを終えている中堅やベテランの感染症医には読みごたえがないかというと，そんなことは全然なく，私自身も「ほー」と感心したり，「ハッ」と肝を冷やしたりしながら楽しく通読した。感染症医歴がもうすぐ 20 年の私にとって，およそ半分の章は既存知識の再確認だったが，残り半分の章には知っているべきだが知らなかった内容がいろいろ含まれていて，良い学びとなった。

例えばグラム陰性菌の章では，「尿路感染症では，グラム陰性桿菌の貪食像は重要なのか？」という問いに対し，結論として「尿路感染症を起こすと尿浸透圧が上昇し，尿細菌が増加すると尿 pH が上昇するため（感染症例の尿であっても）貪食像はあまり見られない」ことが述べられている。気になって調べてみたところ，これは 1990 年代の研究結果（Gargan RA, et al. Infect Immun 1993；61：8-12 など）をふまえ，臨床微生物の世界では常識とされている話らしいのだが，恥ずかしながら私は知らなかった，というか考えたことがなかった。これに限らず，さまざまな感染症を巡る現象について理解を補強できたことをありがたく思っている。

とはいっても，本書の正味 734 ページを最初から最後まで読み切るのはなかなか大変なので，多くの読者にとっては，日常臨床を通じて疑問が生じた際に，関連する章を読んで理解を深めていくのが効率的かもしれない。これを 1 年間実践すれば，おそらくかなりの章はカバーされるはずだ。もう 1 つの読み方として，本書を後ろから読む，というのも，特にトレーニング中の医学生や医師にはお勧めできる。というのは，感染症の歴史，キャリアデベロップメント，リスクコミュニケーションなど，基礎知識が少なくても読みやすく，興味を惹かれる章が後半に目白押しだからだ。ここで感染症医として働いていくことの醍醐味を感じたら，そこから疾患や病原体の各論に読み進んで，執筆陣の感染症に対する熱い思いを感じながら知識を深めていってもらえればと思う。

土井 洋平（藤田医科大学医学部 微生物学講座・感染症科/ピッツバーグ大学医学部 感染症内科）

©MEDSi Ltd, 2023

2026/09/17 12:13:16